

# 研究主題

## 問いを発し、他者との協働を通して自ら学びを深める生徒の育成

～ 学びをつなぎ思考の活性化を促す授業の工夫を通して ～

### 1 研究主題設定の理由

本校では、目指す生徒の姿を「自分の考えを広め、深め、表現することのできる生徒」「他者と意欲的に関わり合い新たな考えを創造できる生徒」「主体的に振り返り、学んだことを課題解決に生かすことのできる生徒」としている。

これまで「思考の活性化」をキーワードに進めてきた授業改善の積み重ねを生かし、「主体的・対話的で深い学び」の実現とカリキュラム・マネジメントの充実とで、全教育活動を通してこの資質・能力の育成に取り組むものとした。

#### ○「問いを発し他者との協働を通して」について

主に「自分の考えを広め、深め、表現することのできる生徒」「他者と意欲的に関わり合い新たな考えを創造できる生徒」との関わりをもって捉えるべき部分である。

「問いを発し」とは、自ら問う姿勢であり、目の前にある問題と既習の知識や経験との隔たり、あるいは問題と捉え、解決のプロセスの中で学びを継続する態度である。「他者と協働して」とは、対象・他者・自己と対話することで成熟していく三位一体の活動の学びの中で、他者と考えや思いを擦り合わせることで、多くの視点からのものの見方や考え方を得ることを表している。

問題を解決していくプロセスで生徒同士、あるいは生徒と教師等が対話や議論を行うことで、生徒の思考を広げ深めることにつながる。そして、地域や社会をよくするために何をすべきかを考え、「未来の創り手」となる資質・能力を育むことができると考える。そして、そのプロセスの中で他者と関わる必然を感じる。

問いを発し他者との協働を通して生徒は、実生活や実社会に生きる知識・技能を獲得することができ、「未来の創り手」となる資質・能力を育むことができると考える。

#### ○「自ら学びを深める」について

主に「主体的に振り返り、学んだことを課題解決に生かすことのできる生徒」との関わりをもって捉えるべき部分である。「自ら」とは、「主体的な学び」の態度である。課題意識をもって物事を見つめ、そこから探究すべき課題を見いだす。そして、既習事項を生かして解決できないか、その方法を探り、見直しをもって学習を進める生徒の姿を目指す。「学びを深める」とは、既得の知識や技能を活用したり関連付けたりして深い理解につなげることや他者との交流を通して自分の考えを見直したり再構築したりすることを表す。

これまで、各教科等で、学習形態を工夫し、能動的な問題解決の過程を重視して、思考の深まりを図ってきた。今年度はさらに、生徒の意見をコーディネートし、全員が納得するまとめを導く指導や思考の過程が見える板書、ノート作り、学習シートの工夫、そして振り返りの時間の確保によって、生徒が思考の深まりを実感できるようにしていく。それが「対話的で深い学び」につながるものと考えられる。

### 2 研究仮説

生徒が関心・意欲を高め、主体的に課題を設定し、その解決に向けて問いを発しながら取り組める単元・題材を構想する。そこで、ねらいに迫る効果的な学び合いを取り入れた多様な学習活動を展開し、生徒の考えをつなぎ教師のコーディネートを機能させることで、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

また、思考が活性化する多様な授業形態や言語活動、発問の工夫、ICT の活用、振り返りの工夫などにより、生徒が自らの学びを実感し、達成感が高まり、主体的な学びを促すことができるであろう。

### 3 目指す生徒の姿

- ・自分の考えを広め、深め、表現することのできる生徒
- ・他者と意欲的に関わり合い、新たな考えを創造できる生徒
- ・主体的に振り返り、学んだことを課題解決に生かすことのできる生徒

## 4 研究の内容

### (1) 「目指す子どもの姿」を実現するための研究の重点と具体的な手立て

重点①思考力・判断力・表現力を高める手立ての充実

- ・生徒が主体的に課題を設定し、その解決に向けて問いを発しながら取り組める単元・題材の構想
- ・ねらいに迫る学び合いを効果的に取り入れた多様な学習活動の展開
- ・生徒の考えをつなぐ教師のコーディネート

重点②主体的な学びを促す手立ての充実

- ・自力思考、ペアや小集団、全体での学び合いなど多様な学習形態の活用
- ・道徳の時間や学級活動での座席配置の工夫や話し合い活動の充実による学び合いの基礎の構築
- ・「研究部だより」などを基にした発問、発表、ICTの活用などについての共通理解と授業への導入
- ・「マイヒストリー」（振り返りカード）を用いた振り返りの活用

### (2) 「目指す子どもの姿」の実現状況の把握と具体的な手立ての有効性についての検証

評価方法と判断の基準	評価時期	担当
教師のコーディネートが、ねらいの達成につながっていたかを、生徒の振り返りから検証する。	授業後 単元・題材終了後	全教職員 研究主任
研究授業や授業参観ツアーで、生徒が目指す姿の具体になっているか。	6～12月授業参観、 研究協議	全教職員 研究主任
学習アンケートを実施し、生徒の実態と変容を把握し、成果と課題を協議する。 (各項目で4段階評価の3以上であるか)	7月(自校) 12月(県学習状況調査)	学級担任教科部 研究部
県学習状況調査の各設問において通過率が基準を上回っているか。	12月	研究部
教師の学習アンケートを実施し成果と課題を把握する。 (4段階評価で平均2.8以上)	1月	研究部

### (3) 改善の計画

#### <短期>

- ・日々の授業、研究授業、授業参観ツアー（全校）、ぶらり研（教科部）等を機会に、生徒の考えをつなぐコーディネート力の向上を図り、学び合いの活動における生徒の姿、振り返り等を基に指導の改善につなげる。
- ・毎週の研究部会を通して、研究の進捗状況を確認するとともに、重点を具体化する共通実践について共通理解を図り、具体的な取組を「研究部だより」で発信し、共有する。

#### <長期>

- ・長期休業期間中に教科部会を行い、授業における共通実践事項に関わる取組の成果と課題を確認し、改善策を立てる。
- ・年2回、研究推進委員会及び教科主任会を実施し、各教科等の成果と課題を共有し、学校全体の次年度の研究の課題を明らかにする。